

氏名	岡 本 良 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3624号
学位授与の日付	平成13年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	T Cell Repertoire in Primary Biliary Cirrhosis: A Common T Cell Clone and Repertoire Change After Treatment (原発性胆汁性肝硬変におけるT細胞レパトア:共通のT細胞クローンと治療によるレパトア推移)
論文審査委員	教授 中山 睿一 教授 小出 典男 教授 槇野 博史

学位論文内容の要旨

3例の早期原発性胆汁性肝硬変(PBC)患者について、RT-PCR/SSCP法を用いてT細胞レパトアを解析した。3例とも肝組織および末梢血リンパ球(PBL)において多数の増殖したクローンを認めた。肝組織の異なる部位からのT細胞レパトアを比較すると、多くのV β 群において共通のクローンが存在していた。肝組織とPBLでのレパトアの比較よりCD4 T細胞とCD8 T細胞がともに増殖していることが証明された。増殖したT細胞クローンのCDR3の塩基配列を解析すると、各患者において比較的保存された塩基配列が使用されていることおよびV β 16をもつ全く同一のCD4 T細胞クローンが3例の患者すべてに存在することが判明した。PBL中に増殖したT細胞クローンはプレドニゾロンによる治療後著明に減少した。これらの結果より共通のT細胞クローンがPBCにおいて病因的役割を果たしていることが示唆された。

論文審査結果の要旨

本研究は、自己免疫疾患である原発性胆汁性肝硬変において、胆管障害の原因となるT細胞についてレパトアを検討したものである。この結果、本疾患肝組織の異なった部位および末梢血にいくつかの共通のT細胞クローンが存在することを認めている。また、プレドニゾロン治療により、T細胞クローン数が減少する。これらの知見は、本疾患の病因として限られた種類の抗原の関与を示唆し、価値ある業績であると認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。